

藤田浩子の 少し昔のこと 〈85〉

戦争

「1人殺せば殺人犯、100人殺せば英雄」これは喜劇役者チャップリンのセリフです。もう日本には、あの戦争を体験した人が少なくなりました。いま85歳の私が小学校2年のときに敗戦になったので、私より年上、それも兵隊として徴兵されたのは20歳（後半は18歳）以上ですから、実際に兵隊として戦争を経験した方は、今95歳以上の方でしょう。だいぶ前ですが、実際徴兵された方におはなしを伺ったとき、一番先にさせられた訓練は、上官が捕虜を殺すところを見ることだったと言われました。目を逸らせずに見ていると言われたけれど、つい目を逸らせてしまって、往復ビンタの罰を受けた、

ということでした。そうやって人を殺すことに慣れさせていったのでしょうか。

戦争というのは、人を殺すことであり、文化を壊すことなのですから。



フツの人間は「人殺し」ということとは無縁に暮らしています。ですから急に人殺しをしなければならないときにはとまどうのが当たり前でしょう。子どものころから「少国民」として多少は鍛えられてきたとしても、実際となれば話は別で「人間」から「殺人者」に鞍替えするのはそう簡単にはいかないでしょう。日常生活でもゲンコツやビンタが当たり前の生活になじまないと自分を変えることはできない、とその方はおっしゃいました。

敗戦後たくさんの兵隊さんが戻ってきたとき、特攻兵だったという人には近づくなと言われました。気持ちやすさんでいるから何をされるかわからないということだったのでしょ。当たりの精神状態では殺したり殺されたりという場面に対応できないのです。戦争は人を「気ちがい」にします。戦争をやりたがる人は「気ちがい」です。加えて自分は殺されない立場にいる権力者たちです。体も心も壊して苦しむのは一般庶民です。

リレー連載 <218>

わたしの大好きな絵本

りっつんつん（元楽々会）

私が、大人になってから知り、好きになった絵本です。

いくつになっても、絵本を手に取り開くことで、楽しい世界が広がるのがたまらなく好きです。

この絵本は、『100万回生きたねこ』がよく知られている、さのようこさんの絵本です。

ねこと暮らすおばあさん、「だってわたしは98だもの」と、言うのが口癖でした。

99才のお誕生日に、おばあさんは上手にケーキを作り、ねこにローソクを頼みますが…！

この日を境に、気持ちがコロリと変わる様子が

『だってだってのおばあさん』

さのようこ 文絵

フレーベル館

楽しくなります。

最近、人と接することが減る中、絵本を読み返す時間も出来たのですが、色々な年齢や境遇の人と接することが、いかに大切に気づきました。

自分に枠を作らずに、この絵本のおばあさんみたいになんでもやってみることが出来る、オチャメなおばあさんになりたいなあと思います。

